

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立東文化会館	
(2) 施設の設置目的	
市民文化の創造及び振興に寄与するため設置	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成27年4月1日から平成32年3月31日まで（5年間）	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none">・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること・ホールなどを活用した文化芸術振興事業を行うこと・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと・自主事業に係る業務に関すること	
(7) 有料施設の有無	
有(利用料金制)	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
SAYAKAホール	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

近隣の学校、老人施設をはじめとする地域住民や利用者とのコミュニケーションを積極的に図り、参加型事業を数多く企画・実施するなど、地域文化会館として地域貢献に取り組んでいる。

(2) 利用者サービス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
指定管理者名	さかいhill-front forum & nan kai stage	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	260,809	256,208	247,800	234,040	/
イ 稼働率 (%)	89.6	87.9	89.0	89.1	
ウ 利用者満足度 (%)	未実施	97.3	97.6	80.4	
「利用者サービス」における市による状況分析	利用者数は前年度に比べて減少したものの、稼働率の低い月に自主事業を実施するなど計画的に事業を実施したことで稼働率は上昇した。				

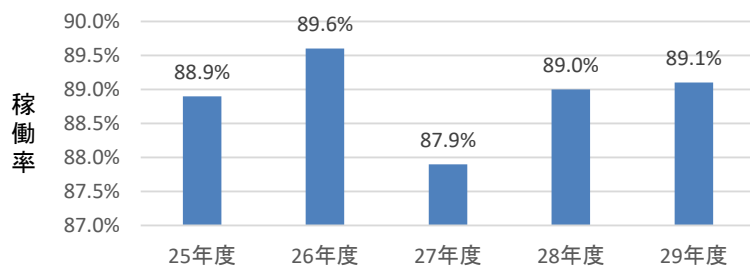
(3) 収支状況(単位:円)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
ア 収入	指定管理料	130,358,000	116,416,000	114,988,000	116,168,000	114,148,000
	利用料金	47,368,078	51,787,695	52,460,155	50,867,037	50,960,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	1,640,761	4,576,404	6,779,602	6,116,146	5,875,000
合 計		179,366,839	172,780,099	174,227,757	173,151,183	170,983,000
イ 支出	人件費	54,512,591	50,234,001	53,866,115	59,515,709	57,395,000
	委託料 ()内は総支出額に占める委託料の割合	72,976,032 (43.4%)	67,624,195 (42.1%)	70,682,855 (43.3%)	66,712,925 (39.8%)	72,865,000 (42.6%)
	その他経費	40,604,958	42,806,027	38,651,247	41,245,256	40,723,000
合 計		168,093,581	160,664,223	163,200,217	167,473,890	170,983,000
利用者一人当たりの支出額		645	627	659	716	—
ウ 収支差額		11,273,258	12,115,876	11,027,540	5,677,293	0
エ 市への納付金の額		—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合の徴収額		—	—	—	—	—
「収支状況」における市による状況分析	利用料金収入及びチケット販売による収益が減少した。文化芸術振興事業について、中間業者を介さず直接出演者と交渉することで委託料の支出減につながった。					

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	稼働率	(設定理由) 適正な管理運営状況を反映する指標の一つとして考えられるため。
	目標	83.0%	(設定理由) 前年度実績を目標として設定した。
	実績	89.1%	(分析) 前年度に比べ、ホールの稼働率は維持しつつ、ギャラリー稼働率の大幅な上昇や諸室の上昇が、全体稼働率の上昇につながったと考えられる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



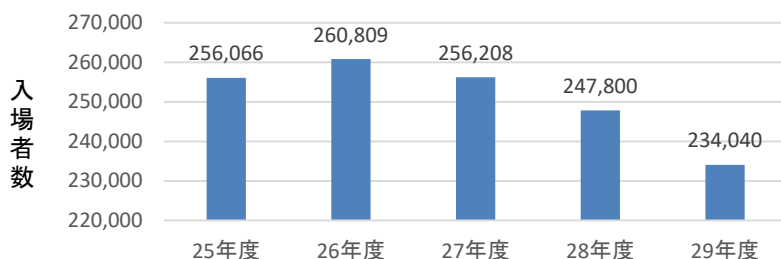
平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	施設の建築年から10年を経過し、経年劣化による故障等が発生したが、文化ホールと生涯学習施設合わせて16件の修繕を行うなど施設の維持管理に努めた。
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価
	評価	A	
	具体的な理由	ホールもよく稼働しているが、それ以上に諸施設がかなりの率で稼働した。ギャラリーの空き月をなくしたのが大きな要因。ホールの平日使用が課題と考える。	前年度課題であった年間を通じてのコンスタントな利用の確保を実現した。また、ギャラリーは長期利用者を獲得するなど稼働率上昇に寄与した。
対応策等	高稼働率であるが、ホール特にメインホールの平日利用を活性化させるために学校・企業等に働きかける事及び自主事業での使用頻度の増により更なる向上をめざす。	ホールの平日利用のニーズを探り、実験的なイベントを開催するなど、新たな利用者層を獲得されたい。また経年劣化等に伴う施設の修繕について、利用者の安全面に配慮しつつ計画的な修繕を行われたい。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	入場者数	(設定理由) 文化会館の利用しやすさや文化会館で行う事業の魅力を反映する指標の一つとして考えられるため。
	目標	257,000人	(設定理由) 前年度実績を目標として設定した。
	実績	234,040人	(分析) 特に関心ホール、フラットホールの入場者数の落ち込みが大きく、全体の入場者数を押し下げている。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	ロビーを活用してのコンサートや自習スペースの提供など新規利用者のニーズに合わせて施設を活用している。
--	--

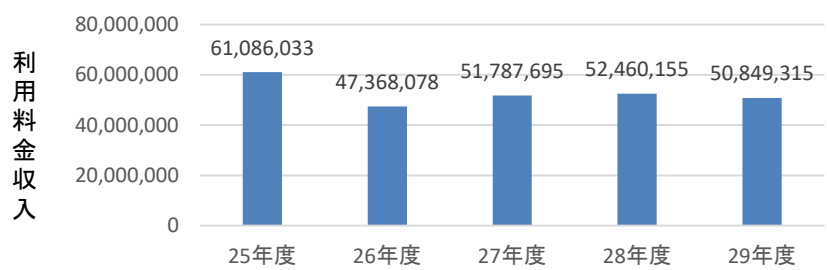
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	ホールで公演する際のロビー、エレベーターへの誘導について、順番通りスムーズに誘導するよう要望があったため誘導方法を改善した。
-----------------------	--

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価
	評価	B	
	具体的な理由	目標より22,960人の減となった。文化ホールロビーや生涯学習施設ロビーで一定数の集客はできているものの、メインホール等の入場者数が伸びなかったため、来年度は目標以上の集客を図る。	ホール、生涯学習棟ともに入場者数が減少している。特にメインホール、フラットホールの入場者数の落ち込みが大きい。
対応策等	上記の事によりギャラリー、両ホールでの新規利用者の獲得と宣伝媒体の使用により主催事業を周知させることで観客の増を狙う。	稼働率が高い一方で入場者数が少ないので、市民の利用を活性化するような魅力的な主催事業を開催する必要がある。また、地域住民から必要とされる文化会館として一層定着できるよう運営されたい。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 収支実績を反映する指標の一つとして考えられるため。
	目標	50,470,000円	(設定理由) 前年度実績を目標として設定した。
	実績	50,849,315円	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標金額を達成した。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	施設の経年劣化に伴い、修繕箇所が増加する傾向にある。施設修繕を最小限にするためにも、施設を丁寧に使用し、適切にメンテナンスを行う。
------------------------------------	---

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし。
-----------------------	-------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A		B
	具体的な理由	リハーサル室・練習室・生涯学習施設は高稼働率を堅持し、ギャラリー稼働率は大幅に向上したため、利用料金収入は前年度及び当初の収支計画を上回った。更なる収入の増加に向けては、平日利用の活性化が課題である。	ギャラリーとメインホールの稼働率上昇により、全体稼働率を高水準で維持することができた。これにより施設の利用料金収入を確保することができた。	
対応策等	メイン・フラット両ホールやギャラリーにおいて、魅力的な主催事業を実施することにより会館の価値を高め、利用料金収入の増加につなげる。	今年度の改善内容を継続することで、メイン・フラット両ホールの稼働率を上昇させるとともに、平日利用の活性化を目指されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの